

学会企画シンポジウム 7

動機づけ研究の未来

——認知・教育・社会・神経科学の各領域間の対話——

企画・司会：中谷素之（名古屋大学）

企画：外山美樹（筑波大学）

話題提供：及川昌典（同志社大学）

話題提供：岡田 涼（香川大学）

話題提供：池田 浩（九州大学大学院）

話題提供：村山 航（University of Tübingen）

指定討論：角山 剛井（東京未来大学）

指定討論：鹿毛 雅治（慶應義塾大学）

企画趣旨：

『動機づけ (Motivation)』の概念は、心理学のなかでも研究や理論が数多く構築されている領域のひとつである。教育心理学においても、目標や効力感、コンピテンスなどの動機づけ諸概念を中心に、多くの研究がある。しかしここでは、学習動機づけ研究を中心として、比較的限られた焦点での研究が行われており、社会心理学や産業心理学、あるいは知覚・認知心理学といった、近接領域における動機づけ研究との対話は十分になされてきたとは言い難い。近年のデータサイエンスや ICT, DX の潮流、あるいは脳や神経の機能への注目により、心理学研究の動向も変化しつつある。グループダイナミクスや集団過程、あるいは自動性や習慣といった、人の意思決定や行動生起を理解する上で欠かせない視点をもつ近接領域での動機づけ研究との対話により、教育心理学における動機づけ研究の意義を振り返り、未来の動機づけ研究への視座を見通すことにもつながるであろう。